



日高山脈館だより

HIDAKA MOUNTAINS MUSEUM NEWSLETTER

第4号 2010.10.

「日高の石ころ図鑑づくり」開催しました。

日高のいろんな石を集めて、図鑑を作る。

8月7日・14日に、夏休みの特別企画として「日高の石ころ図鑑づくり」を開催しました。

開催日前の降雨によって、当初予定していた沙流川の河原に下りることはできませんでしたが、日高山脈館で日高の石について学び、日高山脈館の周りや総合支所前に設置されている岩石を見学し、周囲の石ころを観察しました。作成方法としては、名前のわからない石ころはスタッフが鑑定し、名前がわかったものを参加者各々がピックアップして持ち帰り、配布した解説つきラベルを用いて図鑑にするという方法でした。

今回は、図鑑の作成を参加者にお任せしたのですが、図鑑の作成までを行なって欲しいという意見もいただきましたので、来年は図鑑の作成まで行ないたいと思います。



山脈館前の石の庭も、日高の石ころ図鑑になりえます。

博士に聞こう！この石な～に？

- 石・鉱物・化石のお宝鑑定会 2010 -

岩石の専門家が集まり、どんな石・鉱物・化石でも鑑定します！

11月7日開催予定！ 詳しくは山脈館までお問い合わせください（値段については鑑定できません）。

特集 『ジオパーク』 ③

“さまざまな人々が楽しむことのできる要素”が大切です。

前号では、ジオパークの基盤は岩石であり、植物や動物が好きで山歩きをする「エコツーリズム」と「ジオ」を組み合わせることで、より多くの魅力を伝えられるというお話をしました。

ただ、この考え方は、いわゆる自然の分野に興味のある方には浸透していきやすいのですが、誰もが自然に興味があるわけではありません。その場所の文化や史跡遺跡に興味がある方、釣りやラフティングなどの自然を楽しむスポーツやアクティビティが好きな方もいます。このほかにも、魅力ある食べ物、町並み、風景、芸術、歴史、産業、文学などなど、好みや興味はみなさん千差万別です。

つまり、このようなさまざまな人々が楽しむことのできる要素が、ジオパークに含まれることが大変重要なのです。

このような要素すなわち、「ジオ」以外の魅力は、ジオパークの入り口を大きく広げる要素になります。その地域にさまざまな魅力があれば、それぞれの魅力を感じて多くの人々がやってきますし、おのずとリピーターも増えます。そして地域に何回も足を運んでもらえるうちに、その人が感じる魅力と「ジオ」との関係がわかってもらえると考えています。その地域にあるすべての魅力の根底に関わっているものが「ジオ」だからです。

「ジオ」とは「地球・地質」という意味です。地質や岩石はジオパークの基盤ですが、ジオパークとは、この基盤の上にみなさんの興味を引くさまざまな魅力が存在した上ではじめて成立するものなのです。ジオパークが本当の意味での成功をおさめるためには、その地域にたくさんの方が来てもらえるような魅力があること、これが第一条件といえるでしょう。

(次号はこのあたりについて詳しく説明したいと思います。)



※ジオパーク運営の中心組織ではありません。